

ブリッジサロン会場 質疑応答 ライブ視聴者・会場参加者からの質問

2025 年 9 月 20 日開催（2483）翻訳センター

お時間の都合でご紹介できなかったご質問へのご回答

翻訳事業における機械翻訳や AI 活用の進展は、売上や利益率にどの程度寄与していますか？

- 翻訳センター単体における売上総利益率の向上に寄与しています。説明資料 12 ページにありますとおり、機械翻訳導入前と比べて、機械翻訳導入後の売上総利益率は平均で約 5.5%上昇しています。

翻訳以外の事業は、売上のどのくらいを占めていますか？

- 翻訳事業以外(派遣事業・通訳事業・その他の事業)の売上高構成比率は約 24%です(2025 年 3 月期実績)。

p.9 の顧客ポートフォリオの業種の中で売上構成が一番大きいのはどれで？今後伸びるのはどこでしょうか？

- 説明資料 9 ページの顧客ポートフォリオに記載している業種では、特許事務所が売上構成の最も大きい業種となっています(2025 年 3 月期実績)。
- 今後の伸長を期待する業種は特許事務所と医薬品です。

海外企業との取引はどれくらいあるのでしょうか？

例、英語→日本語のような仕事。

- 海外企業との取引は売上高の 10%未満となっています(2025 年 3 月期実績)。

自己資本比率 76.5%、配当利回り 3.68%、配当 75 円、ROE11.11%、PBR1.03 倍、PER10.8 倍、BPS1,985 円。

全ての数値が良いと思いますが、時価総額は 69 億円と低いと思います。時価総額の目標値を教えてください。200 億円位になりませんか？

- 現時点では、具体的な時価総額の目標額は設定しておりませんが、事業の成長に伴い、企業価値の向上に取り組んでまいります。中長期的には、現在の水準を上回る規模も視野に入れ、持続的な成長を目指してまいります。

配当以外の株主還元のお考えを教えてください。

- 当社では、安定的かつ継続的な配当の実施を基本方針としており、配当性向の目標を 35% に設定のうえ、株主の皆様への利益還元に努めています。
現時点では、株主優待制度の導入予定はございませんが、今後も企業価値の向上を通じて、株主の皆様に対する還元を図ってまいります。

為替変動が事業に与える影響はどの程度あり、どのようなヘッジ策を取っていますか？

- 当社は日本国内のお客様への売上高が 90% を超えていることから、為替変動による事業への影響は限定的であると認識しています。そのため、現時点では具体的なヘッジ策は講じておりません。ただし、為替変動が自社の業績に直結するお客様もいらっしゃるため、翻訳の発注時期や分量に影響する可能性があります。こうした背景から、海外取引の多いお客様の動向については常に注視しています。

配当性向 35% という新しい方針の継続性と、将来的な株主還元方針の方向性は？

- 当社では、安定的かつ継続的な利益還元を重視し、配当性向の目標値を設定する方針を導入いたしました。この方針は、株主の皆様との中長期的な信頼関係の構築を目的としており、今後も継続してまいります。将来的な株主還元のあり方については、事業環境や財務状況を踏まえながら、企業価値の向上とバランスを取りつつ、適切な手法を検討してまいります。

今後の成長イメージの中で、オーガニック成長と M&A による成長の比率をどのように想定していますか？

- 現時点では、オーガニック成長と M&A による成長の具体的な比率は定めておりません。事業の特性や市場環境を踏まえながら、両者を柔軟に組み合わせることで、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。既存事業の成長と並行して、戦略的な M&A も成長の選択肢として積極的に検討していきたいと考えています。

IR 翻訳の取引において、御社が上場している効果はありますか？

- 上場企業であることは、取引先やお客様に対する信頼性の向上につながっており、IR 翻訳に限らず企業向けサービスの提供においても、一定の評価をいただいております。お客様の重要な機密情報をお預かりする立場として、ガバナンス体制や情報開示の透明性が担保されている点も、上場企業としての強みの一つであると考えています。